

令和3年度 福井県立大野高等学校定時制 学校評価書

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
1 教育課程 学習支援	<p>○具体的取組</p> <p>a 生徒の状況に応じた個別支援を行うなど基礎学力の定着を図る。生徒の自主的な活動を充実させた授業の実践・研究に努める。</p> <p>[目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒理解協議会（年3回）と公開授業週間（年2回）の実施 授業や考査などの評価法の改善 生活と職業Ⅰ、通級指導、総合的な探究の時間に関する研究の推進 <p>b 教職員間および保護者との連携を強化し、教育効果を最大限発揮できる教育活動に努める。</p> <p>[目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育効果を高める年間行事の調整や作成 保護者懇談会を年4回実施 各生徒の学校生活の様子や、行事予定の周知 未履修を抑制するために毎月の欠課時数を通知 	<p>a</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒理解協議会において、各生徒の課題を共有化し、個別支援や、全体の指導に生かすことができた。 公開授業期間に、1年次体育（タブレットを活用した）の授業を公開し、研究協議を行った。 授業、考査の評価については、一部観点別評価をふまえて実施することができた。新年度からの観点別評価の本格実施に向けて準備を進めていく。 通級指導および学校設定教科「生活と職業Ⅰ」を円滑に行うことができた。4年間の実践をふまえてより効果的な支援について研究するとともに、全教職員への学習活動内容の周知に努めていきたい。 タブレット端末を活用した授業の参観や意見交換を行った。今後もICTを活用した授業の実践・研究をすすめることが重要である。 <p>b</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナウイルス感染予防をふまえてながら各種活動が充実したものになるよう内容を見直して実施した。さらに各部との連携を強化し改善を図りたい。 保護者懇談会等において学校と保護者との意思疎通を概ね図ることができ、生徒指導にも寄与した。 欠課時数を毎月保護者宛に通知し、未履修の防止に努めた。 今後も引き続き保護者宛に連絡を続けたい。 	<p>a</p> <ul style="list-style-type: none"> タブレットの活用をより充実させるための、研究を実施したい。また、支援に必要なアプリの研究・活用も進めたい。 新教育課程を円滑に実施するための、準備や研究をすすめたい。 「生活と職業Ⅰ」での学びを、生徒が実生活で生かせるように改善を図りたい。 <p>b</p> <ul style="list-style-type: none"> 個々の探求活動と集団的な活動を連携させる行事を各部の方針等をふまえて調整して計画する。 本人・保護者が外部機関と連携する必要が生じた場合、学校の果たすべき役割について個別の事例に応じて検討する。適応指導委員会およびスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーとの連携を深め、不登校経験生徒の指導をきめ細やかにを行う。
2 生徒支援	<p>○具体的取組</p> <p>a 問題行動の未然防止・早期発見・早期対応に努め、人格形成を図る。また、保護者の理解と協力を得ながら基本的な生活習慣を身につけるように努める。</p> <p>[目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> 講話や登校指導などを行い、生徒に対する声かけを実施 家庭訪問やいじめ対策会議（12回）など全教職員体制で実施 貴重品管理など防犯意識の向上 <p>b 学校行事や生徒会行事のやり方を工夫し、生徒の自主性を重視して集団活動の活性化を図る。一人一人が自分の役割を全うし、多くの成功体験を積めるように努める。</p> <p>[目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化祭・体育祭、新入生歓迎会・卒業生を送る会など縦割り集団の活動や異年齢の生徒との交流 部活動の練習と参加機会の工夫 	<p>a</p> <ul style="list-style-type: none"> 日常的なモラル意識やマナーの向上を目標に、生徒対象の講話や声かけ、個別の指導等を行い、モラルとマナー、防犯意識について一定の向上を図ることができたが、まだ時間厳守等の基本的な生活習慣が身につけていない生徒や頭髮・服装を正して登校出来ない生徒も若干名いた。そのような生徒への指導に課題が残る。 「いじめ」や問題行動に対しては早期発見・早期対応に努め、対策委員会やサポート班を開催することで全教職員で情報交換を行い、早期の対応ができた。 <p>b</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍における学校行事の形態や運営方法について生徒会を中心に検討を重ね、創意工夫をこらして文化祭・体育祭、新入生歓迎会・卒業生を送る会などで縦割り集団の活動を行うことで異年齢・異性の生徒との交流を実施することができた。生徒個々人が自分の役割を全うし、多くの成功体験を積むことができた。 部活動においては、コロナ感染対策を行う中で練習を創意工夫し、総合体育大会や全国大会、新入大会、連合文化祭で優秀な成績を修めることができた。 	<p>a</p> <ul style="list-style-type: none"> モラル意識やマナーについて、いろいろなトラブルを起こしたり、複数回に渡ってトラブルを起こす生徒に対しては、問題行動の未然防止や健全な人格形成のための個別指導を関係機関とともに構築していく。 「いじめ」や問題行動については、いじめ対策委員会やサポート班などを早期に開催し、全教職員で共通理解を図り、家庭や関係機関との連携をさらに密にし、人権尊重の指導を継続して行う。 <p>b</p> <ul style="list-style-type: none"> 次年度においても、コロナ対策を念頭に置き、実施できる範囲内で学校行事や部活動、生徒会行事のあり方や運営を創意工夫し、生徒達の活動を確保できるようにし、多くの体験を積めるように努める。また、入試日程の変更により、1・2月の生徒指導部管轄の行事が偏る傾向があるので、全体的な行事精選を検討する。
3 進路支援	<p>○具体的取組</p> <p>a 進路・就労調査を定期的実施し、生徒の状況を的確に把握し、さらに個別の面談を通じて生徒のきめ細やかな希望を聞く体制を整える。</p> <p>[目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> 在校中の就労率向上と就労の定着のため、全生徒との面談を全教職員体制で実施 <p>b 職場見学、専門学校見学会、「先輩・卒業生と語る会」の事前指導・事後学習を充実させ、主体的に進路行事に参加できるよう工夫する。</p> <p>[目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ソーシャルスキルトレーニングをさらに充実させる 授業や特別活動など、学校生活のさまざまな場面で、自己肯定感を高める指導を工夫する 卒業生に対する早期の進路対策 インターンシップへの積極的参加を促す 	<p>a</p> <ul style="list-style-type: none"> 卒業予定者に対しては定期的に行う進路調査をもとに担任や進路担当、産業人材コーディネーター等、場合に応じてカウンセラーによる個人面談を行いきめ細やかに進路意識や希望の聞き取りを行った。生徒の進路希望は、家庭や生徒個人の状況によって進捗状況が異なったり、変化したりするので現状を的確に把握し指導することができた。 <p>b</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ感染拡大により一部の行事や活動が中止となった。これにより、十分な進路情報の提供が出来なかったり、体験機会を喪失した。 実施できた進路行事においては卒業予定者に限定せずなるべく全生徒を対象とし生徒の進路意識の高揚を図った。 生涯を通じた進路に関する考え方についての指導が不十分のため就職や進学への考え方を深めることが困難であった。そのため進路決定や進路に関する活動が効率よく行うことが出来なかった。 	<p>a</p> <ul style="list-style-type: none"> 進路・就労調査を定期的実施し、生徒の状況を的確に把握し、さらに個別の面談を通じて生徒のきめ細やかな希望を聞く体制を定着させ、在校生への就労支援や卒業予定者の進路希望実現を図る。 卒業生の就職先・進学先との連絡・訪問などを積極的に進め、就職状況・学習状況の把握に努める。 ハローワークとの連携をとりながら在校生の就労率向上を図る。また就労の定着のため、就労実態について定期的調査を行い個人面談などできめ細やかに対応する。 <p>b</p> <ul style="list-style-type: none"> 職場見学、専門学校見学会、就職講演会など企業・学校・ハローワークなどの外部の機関から情報提供や講演を聴くことによって進路意識の向上を図る。 1年生からビジネスマナーや言葉遣い・身だしなみなど社会人として必要なソーシャルスキルを充実させる。 授業や特別活動など、学校生活の様々な場面で、言葉遣い・身だしなみに注意を払わせる。 早期の段階から就職対策（求人票の見方、作文・面接・履歴書指導）や進路対策（小論文・面接・学習指導）を行う。 就労・就職に不安を抱える生徒には積極的にインターンシップに参加させる。

<p>4 保健管理</p>	<p>○具体的取組</p> <p>a 日常的な指導を通じて、清掃活動・校内美化の意識向上を図る。また、「保健だより」や保健講演会等により健康に関する意識の高揚に努める。 感染予防に配慮した生活様式の定着を図る。 〔目標〕 ・全教職員による毎日の清掃指導の実施 ・保健講演会年2回の実施 ・毎日の健康観察の実施 ・消毒、換気の徹底</p> <p>b スクールカウンセラーや外部機関と連携し、生徒個々に対応した教育相談体制の充実を図る。 〔目標〕 ・生徒・保護者・教職員に対するスクールカウンセラーによる面談の効果的な実施 ・ケース会議や適応指導委員会の適切な運営</p>	<p>a</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の働きかけにより、ほとんどの生徒が清掃活動にしっかりと取り組むことができた。しかし、ごく少数の生徒の机の周りやロッカーが整備されていない状態もあった。 ・環境学習として行った亀山清掃では、熱心に清掃活動に取り組むことができた。また、地域の文化遺産に触れたり、学芸員の話の聞いたりすることで郷土の歴史を学ぶよい機会となった。 ・「保健通信」や掲示物、生徒への声掛けで感染予防に配慮した生活様式の定着を図ることができた。 ・大野市浄土宗善導寺副住職の大門哲爾氏により「これからも大切に生きるために」という内容で保健講演会を実施することができた。また、SOS教育として、ストレスマネジメントの方法を学ぶ機会を設けることができた。 ・年度当初の「元気度チェック」や毎日の「健康観察」などで、生徒の現状を把握し、状況に応じた「保健だより」を定期的に発行することができた。 <p>b</p> <ul style="list-style-type: none"> ・困難さを抱える生徒への理解を深めるために担任、スクールカウンセラー、外部支援機関で連携してケース会議などを行い、支援体制を構築することができた。しかし、具体的な解決につながりにくいケースもあり、継続的な支援につなげるために関係機関とさらに協働していくことが求められる。 	<p>a</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習環境を整えることが落ち着いた学校生活を送る上で大切である事を日常的に指導する。清掃時間だけで無く、日々の学校生活の中で、全教職員が声かけや働きかけを行っていく。 <p>b</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒支援のための情報共有を密に行い、相談体制をさらに充実させる。 ・関係機関との連携を継続し、生徒に寄り添った対応に努める。 ・困難さを抱える生徒に対しては、適応指導委員会等で具体的な支援体制を作るよう努める。
<p>5 ICT活用</p>	<p>○具体的取組</p> <p>a 各生徒が使用するタブレット端末を活用するための、ルール作りや、授業実践を研究する。 〔目標〕 ・個人情報を守る力の育成 ・他者に配慮し情報を発信する倫理的な力の育成 ・プロジェクターやタブレットの有効活用の研修および実践交流</p> <p>b 情報の管理や保護について、具体的な事例をもとに研修を行い教職員のセキュリティー意識などを高める。また、保護者に対して緊急性の高い情報を迅速に提供する。 〔目標〕 ・教職員への研修の実施、業務効率化の環境整備 ・大高メールを活用し、保護者へ情報提供を実施</p>	<p>a</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒に対してID・パスワードの取扱について、個人情報保護の観点から注意を促した。 ・授業において意見を書き込む際に、他者への配慮に留意するように指導した。 ・あらゆる活動や場面においてタブレットの活用がすすんだ。授業については、科目の特性もあり積極的に活用できる授業と活用しにくい授業があるが、臨時休校の対応として全ての教科科目でオンライン授業が可能な体制づくりはできた。 <p>b</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラスルーム、ロイロノートなどの活用について、教員間の日常的な研鑽が行われた。 ・成績管理システム「賢者」の活用範囲が拡大した。来年度からは調査書への活用を試みたい。 ・大高メールを活用し、必要な情報や緊急連絡を保護者に提供することができた。 	<p>a</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ID・パスワードの管理や情報モラルの必要性について指導支援をさらに行う。 ・本校の少人数指導のメリット生かしながら、タブレットの活用をすすめる。それに伴う、研究や実践交流の場を創出する。 <p>b</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書字や読字に課題のある生徒を支援するためのアプリの研究や活用をすすめる。 ・観点別評価を円滑に行うため、賢者の活用について研究する。 ・緊急且つ重要な情報について、大高メールを活用して迅速に保護者への連絡を行う。